

令和7年度 学校評価表

【学校教育目標】一人一人を大切に、互いに高め合い、未来に向かっていく生徒の育成

分掌区分	経営目標				重点項目番号	アンケート結果(肯定的回答の割合)					※生徒、保護者の○数字はアンケート質問番号	学校関係者評価	改善計画				
	担当	中期目標	短期目標	達成のための手立て(具体的な実施内容)		評価指標	目標値	職員	生徒	保護者				評価	結果と評価の説明	学校運営協議会のコメント	改善策
総務部	総務部・管理・庶務部	今日の教育課題の解決に向けた	働き方改革の推進 業務の効率化	・校務支援システムの活用 ・スクール・サポート・スタッフの活用	1	業務の効率化が実感できた割合	70%	100%			A	・スクールサポートスタッフの活用で、教職員の業務がすいぶん軽減されている。 ・校務支援システムの使い方にまだ不慣れな部分もあるが、徐々に日常的になっている。	・毎年効率化は進んでいるが、時間外勤務はなくなる。生徒たちと向き合ううえで、やむを得ない時間であるかもしれないと感じる。 ・導入されているシステムに多くの職員が慣れていくとよい。	・余裕をもって立案、起案をし共有をする。行事等では担当者を明記することで、組織として対応したり、見直しをもって準備をすることができるようにする。 ・長期的な視点で、生活時程の見直しを検討していく。(清掃時間等)			
					1	業務の効率化を意識し、時間外勤務を減らすことが実感できた割合	80%	47%			B	・業務の効率化について引き続き取り組んでいく必要がある。行事がある場合、早めの起案、情報共有、分担割振をし、準備しながら調整を進めていく。					
			2	I C T の活用 適時的、効果的な情報提供	・すぐるの積極的な活用 ・HPの更新、便りの発行、行事等の迅速な情報提供	2	適時的、効果的に情報提供がなされていると思う割合	80%	59%		② 64%	A			・「すぐる」で保護者宛文書を配信したり、欠席連絡を2学期からスタートしたりした。今後もさらなる有効活用を図っていきたい。	・たより等を保護者に見せていない生徒がいるのではないかとと思われる。 ・すぐるの運用は、学校が現在取り組んでいる方法でよい。	・たよりや学校公開など多角的に設定していく。 ・学校たよりで各学年の教育活動を紹介するスペースを設定することを検討する。
教務部	ふるさと	キャリア	学習指導要領の趣旨に沿った充実した教育課程の編成と学習指	地域教材を利用した授業づくり ・職場体験学習の連携、推進	・まちづくりセンターとの連携、協力 ・市内の「ひと・こと・もの」の有効活用	3	・次の学習や生活への意欲につながったと感じる割合 ・自分の進路に対する考え方を広げることができたと感じる割合	75%	71%	⑧ 88%		A	・総合的な学習の時間の使い方や講演会は、評価指標にあった内容のものとなっているから、生徒たちの肯定的回答が多いと推測される。	・職場体験は地域性もあり、生徒たちの希望に添えていない場合もあると思う。 ・進路学習を各学年の実態に沿って、系統的に進めていくとよいのではないかと。	・計画的にキャリア教育を進める。 ・ふるさと教育などの学習や各行事の目標、振り返りの中にキャリア教育の視点を加える。		
						4	ふるさと「浜田」について、新たな気づきがあったという生徒の割合	75%	77%	⑦ 82%	④ 63%	⑤ 63%	A	・保護者と生徒間で差があるのは、学校からの発信であったり、家庭での対話状況によって差が生じてきているのではないかと。 ・地域や保護者の思いを学校運営協議会等の協議体で、明確にし、関係者で再確認をしていく必要がある。	・いろいろな工夫を凝らして、学校は地域の「ひと・もの・こと」を活かしている。 ・生徒たちの具体的な「気づき」に興味がある。	・生徒の質問では新たな気づきがあったかを問う設問に変更を検討する。総合的な学習の時間を中核として、明確なねらいのもと、気づきを生み出せるふるさと教育を推進する。 ・学校運営協議会やまちづくりセンターと連携をし、育てたい子どもの姿やふるさと教育のねらいや振り返りを熟識していく。	
						5	授業における各機器の活用 タブレットの家庭での活用 授業研究での各機器の活用	・教職員への研修の実施 ・家庭で使用するための持ち帰り規定の作成	5	・授業内でタブレットを使用した割合。 ・家庭へ持ち帰って使用した割合。	70%	65%	⑥ 79%		B	・タブレット使用に関しては生徒達にメディアリテラシーを伝え、自律する力を育てる必要がある。 ・ICT活用で達成感や充実感を感じられるような、題材設定や活用を引き続き進める。	・スキルに個人差が大きいのではないかと。 ・生徒にもICTを活用する前段階のタイピングや使い方等のスキルを見つける時間も必要。
生徒指導部	生徒指導	豊かな人間性とコミュニケーション力の育成	個に応じた支援の工夫と組織的な対応の継続	問題の早期発見・対応・活用のために ・定期的な情報交換 ・学校生活に関わるアンケートの実施 ・スクールカウンセラーの活用 ・関係機関の活用	困ったことが解消されたと思う割合	6	困ったことが解消されたと思う割合	80%	94%	⑨ 90%	⑦ 71%	A	・職員間での情報交換を適切に行う一方、問題の早期発見、適切な判断、素早い対応に努める。 ・保護者に向けての情報発信の機会を増やすとともに、その伝え方を工夫していく。	・子どもたちの表情がとても良い。それは自分の思いを受けとめてくれる先生がいると生徒たちが感じているからだろう。	・引き続き問題の早期発見、正確な状況把握、素早い対応を心がけるとともに、予防的生徒指導にも努める。保護者への情報発信を心がけるとともに、伝え方を工夫する。		
						7	基本的な生活習慣の育成 ・あいさつ、返事、服装 ・公共ルール、マナー	生徒会執行部と連携した指導を通して、基本的な生活習慣が身についたと思う割合	80%	90%	⑩ 91%	⑫ 63%	A	・生徒会と連携して、生徒と共に校内の諸課題の改善に取り組む形が構築されてきた。 ・今後も生徒会と連携し、主体的、組織的、民主的校生活の質の向上に努める。	・生徒たちの学校でのあいさつやマナーはよいので、生徒や教職員の肯定的な回答がどちらも90%超えている。 ・保護者の回答と生徒、学校の回答には差がある。家庭での声かけも必要。	・引き続き生徒会との連携を大切にしながら、「対話」をベースとした生徒指導、生徒支援を行うことで、生徒との信頼関係の構築に努める。	
						8	対話による人間関係作り ・教育相談 ・生活ノート	・教育相談や生活ノートへの誠実な対応 ・日常的な教員からの声掛け	一人一人が大切にされていると感じる割合	80%	100%	⑪ 90%	⑧ 56%	A	・引き続き、生徒との対話の機会を大切にしながら、生活ノート等も活用して、生徒理解に努める。 ・学級通信、懇談等の機会を活用して、学校での取り組みやその意義、効果を保護者に伝える。	・学校は生徒たちとの関わりを大切にしていると感じる。	生徒との様々なコミュニケーションの手段、機会を大切にして、生徒理解に努める。学級通信等のたよりの発行、懇談等の機会を利用して、保護者への情報発信を積極的に行う。
						9	感染症対策と健康管理	・環境の整備(換気・掃除) ・給食前の手洗い・消毒 ・健康観察と体調不良者の早期対応	生徒が実践できていると考える割合	75%	86%	⑬ 80%		A	・感染症対策では、毎朝、保健体育委員会が教室周りの環境の日常点検を行っている。職員・生徒の評価が高いのはその効果があると感じているからだと思われる。	・継続してほしい。	・引き続き、保健体育委員会と協力し、校内の環境整備や日常点検等を行い、感染症の拡大防止に努める。 ・感染症拡大の兆しがあるときは、換気の強化、給食時の対応など更なる感染症拡大防止に努める。

令和7年度 学校評価表

【学校教育目標】一人一人を大切に、互いに高め合い、未来に向かっていく生徒の育成

分掌区分	担当	経営目標		重点項目番号	評価指標	アンケート結果(肯定的回答の割合)					※生徒、保護者の○数字はアンケート質問番号	学校関係者評価	改善計画
		中期目標	短期目標			目標値	職員	生徒	保護者	評価			
研究部	人権・同和教育	互いの権利や立場の尊重	人権講演会、研修会の工夫 生徒の意識、態度の育成	10	人権に関して意識が高まったと思う割合	75%	94%	② 99%	⑬ 66%	A	・生徒は、道徳を中心に日常の中でも人権について考えることが概ねできているが、実際の行動や言動については気になることが多く、十分に養われているといえない。 ・保護者には、学習の様子あまり伝わっていないので、今後は家庭への発信を工夫することが必要。	・生徒の多くが肯定的な回答をしている。 ・人権集会を実施するにあたり、保護者や地域に案内することも考えてみてはどうか。 ・時代に合ったものとして「ネットでの人権問題」を学校では人権教育に合わせて行ってもよいのではないかと。	・学校だよりを活用し、事前に人権集会開催について告知する。興味をもっていただきやすい形や、学校公開日に合わせて実施する等の工夫をしていく。 ・学習に使用する資料は、引き続き時代に合った新しいものを選ぶ。
	学力育成	主体的に生徒ぶの育と成が	話し合い、表現活動の充実	11	・話し合い活動を通して自分の考えを深めることができたと感じる割合 ・話し合い活動で自分の意見を表現することができたと感じる割合	75%	65%	④ 88%		B	・生徒は自分の考えを伝えたり、深めたりすることができた満足しているが、教員は効果的な話し合いができたとは評価していない。	・上級生ほど、肯定的回答が多い。集団の成長が大きく関わっているため、お互いの思いや考えを伝え合う活動を継続してほしい。	・引き続き、質の高い話し合い活動を継続する。適切なテーマの設定や双方向の話し合いにするための仕方を教師側が助言するなどをしていく。
		家庭学習の充実 定期テスト期間の学習状況の記録と振り返り	・自主学習ノートを充実させる ・テスト計画表の活用	12	自分で計画を立てて家庭学習に取り組むことができたと感じる割合	75%	65%	⑤ 68%	⑦ 55%	B	・教員による家庭学習の指導が行き届いており、主体的に取り組む生徒が増えたが、家庭で毎日勉強しているかと質問されているため保護者の評価は高くない。	・学校での生徒の姿と家庭での姿が異なっているからの数値であろう。生徒自身が自分ごととしてとらえていくことが大切。 ・生徒たちが主体的に学習に取り組むと思うような仕掛けは必要だと思ふ。	・生徒も職員も7割近くの肯定的評価をあげている。引き続き個に応じたきめ細やかな指導を行っていく。